



ネコやイヌは、どうしてニャーとかワンとなくの

仲間に通じることばが、ニャー、ワン

ネコやイヌは、人間がことばで友達と話しあうのと同じように、ことばのかわりにニャーとかワンとなくのです。動物は、たいてい、同じ動物どうしだけに通じる、共通のなき方をもっています。

同じ種類の動物なら、頭や、口、のどなどの骨の仕組みや形も似ています。そのため、ネコならニャーとなきやすいし、イヌはワンとほえやすいのです。長い間かかって、ネコならネコ、イヌならイヌの共通のなき方が、できたといえます。

体や態度で感情を表す

同じニャーとかワンでも、あまえているとき、こわがっているときなど、それぞれ、なき方がちがってきます。また、フーとうなったり、キャンキャンとさけんだり、ネコでもイヌでも、ほかのなき方もあります。ほかに、しっぽをふったり、体をすりよせたり、顔の表情や、体全体で相手に自分の気持ちを伝える方法を、たくさんもっています。

鳥の鳴き方には、方言がある

ウグイスなどは、ホーホケキョという鳴き方を、少しずつ練習してうまくなっていきます。早春のころ、若いウグイスが、まだうまくホーホケキョと鳴けないうで、へたな鳴き方をしているのを聞くことがあります。鳥は、人の物まねがじょうずなものもいるように、耳で聞いて鳴き方を覚えます。そのため、同じ種類の鳥でも、すんでいる場所がちがうと、人間の方言と同じように、ちょっと鳴き方がちがうことがあります。(監修・今泉 忠明)

